

# 万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行

浄土真宗本願寺派

万行寺 山崎信充

〒385-0003

長野県佐久市下平尾461-1

電話 0267-67-2460



## ■住職法話

この上ない『ご利益』  
りやく

## ■～結ぶ絆から、広がるご縁へ～ ごえん

## ■本願寺の本

大きな字の歎異抄  
たんにしやう

## ■お知らせ、編集後記

## Photo

桃の花が見頃です。

寺のある下平尾しもひらおは平根地区ひらねにあり、桃源とうげん

郷きやうといわれ、古くから桃の栽培で有名な

場所になっています。

# 住職 法話

## この上ない『ご利益』

長野の善光寺で御開帳が始まりました。新幹線効果や天気にも恵まれて、最高の人出になりそうだという報道もされました。

この御開帳開幕に先立つて、善光寺住職を務める、大勧進の小松玄澄貫主と大本願の鷹司誓玉上人が、それぞれ記者会見をしました。その内容が、三月三十一日付の信濃毎日新聞に掲載されました。その中でも、鷹司上人のお言葉に共感するところがありました。

それは、御開帳に来て食べ歩きとかグルメに注目が集まりがちですが、せっかく間近に拝めるように、仏さま(前

立本尊)のほうからお出ま

いたたくのですから、先ずは「仏さまを拝む」ことを中心に行動をと仰っています。そして、我先にと争うように回向柱に触れるようなことではなく、出来れば秩序をもって、敬虔な気持ちでお参りしていただきたいとも仰っています。続けて、善光寺に入山されて十回目の御開帳になるのですが、毎日、お勤めしている日常のことで「平常心」で勤めたいと、自らの姿勢も述べておられます。

このように、「仏さまを拝む」こと、そして「平常心」といわれるように、先ず仏さまに対する姿勢が大切であ

るということです。

一方、何かにすがりたい、助けてほしい、平和であってほしいという私たちの願い事に応え、安堵するなどという人間中心の行いの中に、仏さまからの真の願いなど見えてきません。

実は、前回、ちょうど六年前の寺報四月号にも、私は当時の同じ会見の内容を取り上げていました。当時も、同じ鷹司上人のお言葉を取り上げ、ともすれば御開帳によって観光化させ、多くの参拝者呼び込み周りが潤うことを願う言葉もある中で、人間同士、他のあらゆる動植物に對しても優しさを持つなかで

本来の「仏教の精神を見直して」と仰るお言葉は光るものがあると書いていました。

「南無阿弥陀仏をとなくれば、この世の利益きわもなし」という親鸞さまのご和讃も取り上げていました。この上ない(きわもない)「ご利益」とは、仏さまからの願い事を依り所として生きようとする生き方が恵まれたということですから、御開帳もそうですが、折折に、寺の催し事などがありますが、先ずは仏さまを通して自らの姿勢を正すきっかけをいただくことこそ、この上ない「ご利益」ではないでしょうか。



く結ぶ絆から、  
広がる「縁へ」

# いっせん

⑥わたしとあなたのことです。

くいのちを共にするく

『仏説阿彌陀經』の中に、  
極楽浄土にいる鳥として「共命の鳥」の名が見えます。  
「共命の鳥」とは、胴体は一つなのに、頭が二つあるのです。  
「共命」といいますが、この共命の鳥については、次のようなエピソードがあります。  
鳥は木の実を餌としていますが、ある共命の鳥は、一方の頭の方だけが、いつもおいしい木の実を先に食べ、もう

一方の頭の方は、いつも残りものの木の実を食べていました。いつも残りものばかりになっていく方が、そのことを不満に思っていたために、ある時、毒の木の実を見つけた時、「おいしそうな木の実がある」と言いました。こう言えば、必ずもう一方の方が、横取りして、毒の入った実を食べ、苦しむだろうと思ったのです。予想通り、さっさと横取りして、毒の実を食べ、苦しみ始めました。「やった。ざまあ見る」と喜んでいたところが、胴体はつながっているのです、もう一方の方にも毒が回って苦しんだという話です。

私たちは、この鳥が「愚かだ」といえるでしょうか。私と他人とのつながりを忘れ、「自分が」、「自分が」と我を

張っています。私と他者とのつながりを忘れて、自分ばかりを主張するから、互いにぶつかり合うことになります。それを、仏教の言葉で「我他彼此」というのです。

自分のことだけ主張すれば「ガタピシ」と不快な音を立てます。かといって、自己中心的なあり方から離れることが簡単にできるわけではありません。自己主張してガタピシと音を立てるのが私たちのありのままの姿であり、互いに主張し、話し合い、論争し、そうやってつくり出されていくのが私たちの社会です。

しかし、「縁」という見方があれば、共命の鳥のように、いのちを共にしているものであると知らされて、ただぶつかり合うだけの愚かさを知り、互いの意見を尊重し、

許し合い支え合う「共に」の社会をつくっていく思いが生まれてくるのではないのでしょうか。

「編集・発行／浄土真宗本願寺派総合研究所、重点プロジェクト推進室」より



## ～本願寺の本～

## 『大きな字の歎異抄』

本願寺出版社(編) / 梯 實圓(解説) 810円(税込)

浄土真宗の真髓が記された『歎異抄』を、大きな文字と丁寧な解説で味わう。

時代を越えて今なお人びとの心に響く名著をより身近に。

発行以来20万部を数える好評書籍『歎異抄(文庫判)』を大きな字で読みやすく再編集。

[本願寺出版社HPより]



再編集をされ、あらためて「歎異抄」にふれるきっかけになればと思います。もちろん、初めての方にもオススメです。

## お知らせ

万行寺門信徒会より、本年度の会費のお願いをする時期となりました。近々、昨年度の報告と共に、あらためてご案内をさせていただきます。

門信徒会によって、お寺は皆さまにより支えられていきます。仏さまのご縁を大切にし、亡き方のお導きをいただきながら、「私のお寺」を持たせていただくことをこの会の趣旨にしています。本年度も、ご理解とご協力のほど宜しくお願ひ申し上げます。

## 編集後記

最近、太陽光発電の施設になりましたが、寺の境内地に隣接してプルーン畑がありました。お寺の拠点に移した七年前から、その畑の持ち主で、畑仕事に来るおじいさんと親しくさせて頂きました。先日、その方が八十八歳で亡くなりお焼香に行ってきました。◆ご近所付き合いで、毎年、プルーンを頂くのが常となっていて、特に、坊守(妻)とは話が合って、地域のことや家庭のことまで話す仲でした。◆何も地域の事からわない私たちにとって、大変お世話になった方でした。有難うございました。(合掌)